

# 未来の自分をつくる

## 「めざす働き方」実践講座 Vol. 9



仕事と暮らしの研究所 代表 鹿野 和彦氏

1991年に広報PR&人材育成支援等を行う株式会社アプレ コミュニケーションズを設立、2001年には仕事と暮らしの研究所を設立して労働組合・大学・自治体などのシンクタンクとしてサポート事業を展開。大正大学キャリア教育研究所招聘研究員、労働組合・各種団体の客員研究員。著作のテーマは人材育成、教育・社会問題、広報関係等幅広い。

### めざす働き方を実現する（1）／自らの意識を変える

第1回から第8回の記事では、これからの世の中は急激な変化が予測されていること、またそうした時代に「めざす働き方」を実現するためには、自分自身をしっかり棚卸しするとともに、世の中の動きを敏感に感じ取れるスキルの向上が必要であることを学んできました。今回からは、これまでの記事をふまえながら、具体的にどうすれば「めざす働き方」を実現する自分をつくれるのかを考察。第9回では、自らの意識を転換する方法を解説します。

#### 基本となるのは偶然を生かす力 5つの力の本質を押さえる

社会・状況の変化に、柔軟かつ適切に対応していくうえで重要になるのが「偶然を生かす力」。第2回の記事で取り扱った「ブランド・ハップンスタンス理論」で示されている、5つの力（姿勢）を身につけることです。

自分の仕事を取り巻く状況などに変化が生まれたとき、変化を恐れるのではなく「好奇心」を持って見守る姿勢。そして、その変化を「楽観的」に捉え、必要とあらばどんどん自分自身を変化させていく「柔軟性」を身につけた人こそが、大きな変化に対応できる人間だといえるでしょう。

そして、行動にあたっては「リスクを恐れずに」チャレンジすること。さらに、達成できるまで粘り強く挑戦し続ける「こだわり」を持ち続ける人が「めざす働き方」を実現すると考えられます。

#### 〔図版〕偶然を生かすための5つの力

##### 1. 好奇心

- 現状に満足せず、常に新しい価値を求める気持ち
- 【必要な力】 実行力、情報収集力、状況の変化を把握する力

##### 2. 柔軟性

- 固定観念にとらわれず、複眼的に物事を見て課題を発見し解決する力
- 【必要な力】 人の話を傾聴する力、考え方の違いを理解・対応する力

##### 3. 楽観性

- プラス思考で物事を考え、前向きに判断できる力
- 【必要な力】 失敗から学び取れる力、ストレスを統制できる力

##### 4. リスクを取る姿勢

- リスクや初めてのことにチャレンジできる力
- 【必要な力】 失敗したときに他者ではなく自分に原因を求めて物事を追求できる力

##### 5. こだわり

- 物事を追求し考え抜く力、行動を継続する力
- 【必要な力】 他者に働きかける力、自分の言動を内省できる力

## 積極的な情報収集の積み重ねと 視点を変える工夫で「好奇心」を向上

5つの力のうち、「好奇心」は常に新しい変化に関心を持つこと。第6回と第7回で整理した「日々のニュースから変化を把握する」「日々の仕事から変化を把握する」ことを積み重ねていくことで、好奇心が喚起されます。「先手必勝」ではありませんが、時流に乗れる人は時代に対する嗅覚が優れているもの。「何か変化の兆しはないか」という視点を持ち日々の仕事やニュースを見ていくことで、好奇心は向上します。

ただし、物事を見る視点は固定化してしまうケースが少なくありません。次の「柔軟性」向上にも役立つ手法ですが、視点を変えて物事を見るトレーニングを行うことも好奇心の醸成に役立ちます。

具体的には、通勤や移動の時間を利用して、例えば赤なら赤、青なら青の物だけを見る。特定の仮名や漢字、アルファベットの文字に着目して街中を見らるといったトレーニングをすると、普段は見えていない光景が飛び込んでくることがあります。なぜならば、人間は知らず知らずのうちに自分の関心や思考パターンで物事を見る習性があるからです。同様に、子どもと同じ背の高さで景色を見るなど、視点の高さを変えてみる方法も有効です。

## 自らの発想方法を変えること、他者の発想方法をまねることで身につく「柔軟性」

柔軟性を身につけるためには、下記の2通りの方法が近道です。

### 1. 自分の発想・思考方法を変える

自分の発想・思考方法を変えるためには、最近注目されている「考えるための技術／思考技術」を応用すると便利です。以下、2つの思考技術を紹介します。

#### 〈1〉マンダラートを活用する

マンダラートとは、9マスのマトリクスの表を作成することで発想方法を膨らます思考技術です。まずマトリクスの真ん中に考えるべきテーマを記入し、その周りに企画を考える際の切り口を8つ記入していきます。3～4つであれば誰もがすぐに思いつきますが、5つ以上になると、発想を変えなければなかなか切り口が見つかりません。その悩む過程こそが、柔軟性を鍛えることになるのです。

#### マンダラートの例

読みやすい	情報が多い	閲覧度アップ
社員が登場	新HPは？	社長の秘密
お客さま登場	メディアとしても注目	プレゼントつき

#### 〈2〉オズボーンの9つのチェックリストを活用する

限られた時間内に自由に話しあって、いろいろなアイデアを出す企画立案の方法であるブレインストーミング。いわゆるブレストを考案したアレックス・F・オズボーンは、人間が自由に発想を広げるためには、次の9つの視点から考えてみるのが大事だと指摘しています。

- 転用：ほかの分野で使い道はないか？  
ほかの分野に活用できないか？
- 応用：ほかからアイデアを持ってこれないか？  
過去に同じようなことをしなかったか？
- 変更：仕様（色、形、音、匂い等）を変更できないか？  
機能を変更できないか？
- 拡大：より大きくできないか？  
より強く、長く、高くできないか？
- 縮小：より小さくできないか？  
より弱く、短く、低くできないか？
- 代用：ほかの物（人）で対応できないか？  
違う要素で構成できないか？
- 置換：順序（要素）を変えられないか？  
ほかの機会（人）に変えられないか？
- 逆転：役割（順番）を逆にできないか？  
上下左右を逆にできないか？
- 統合：目的、メンバー、作業を一緒にできないか？  
アイデアを組み合わせられないか？

#### 2. 他者の発想方法・思考方法をまねる（学ぶ）

自分の発想・思考方法を変えるのが困難であれば、他者の発想・思考方法をまねてみるのも有効です。具体的には、次の2つのことを実践してみましょう。

#### 〈1〉異業種・異世代との交流

仕事や趣味が異なれば、考え方や価値観、優先順位が異なるのも自然なこと。できるだけ自分とは異なる世界・業界の人と交流する機会を持つことが大